

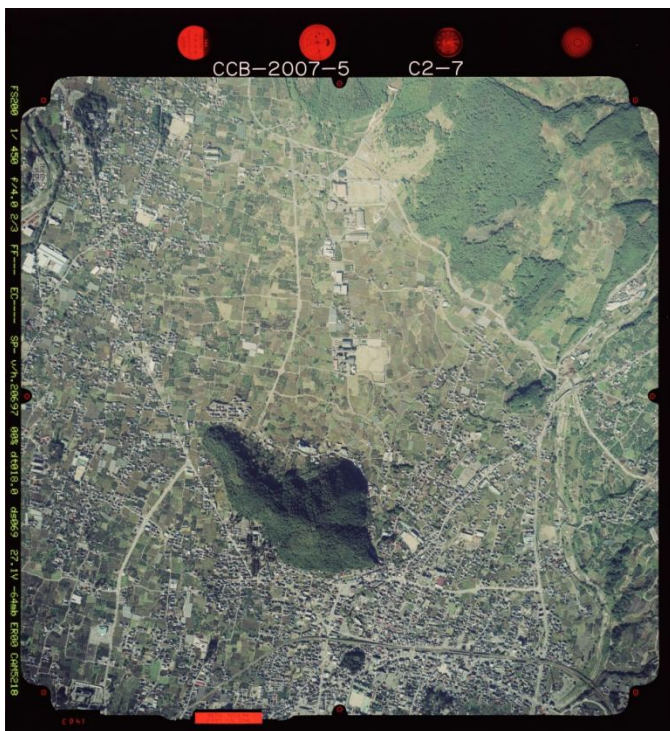
「中央本線の車窓 (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

塩山の「塩ノ山」の成因はだいたい理解できた。私はこの山の名を、小学生の時に地図帳で知り、この山がどうやってできたのか興味を持ったのを覚えている。四十数年ぶりに、疑問が解決したことになる。



最後に、国土地理院から塩山扇状地の航空写真を入手して、塩ノ山を上空から眺めてみた。(2ページ目に拡大) 周囲が扇状地で平坦なことと、市街地の真ん中にあるので、やはり非常に目立つ。私が塩山の小学校の教諭だったら、理科の授業でまずこの山について学ばせ、実際に子どもたちと登るにちがいない。



塩山を過ぎた中央本線の列車は、針路を一転、南西に向かって進む。石和温泉駅を過ぎると、今度は左車窓に富士山が見えてくる。しかし、手前の山脈が邪魔で、山頂付近しか見えない。この「邪魔な山脈」は「御坂山塊 (みさかさんかい)」と呼ばれている。

実は地質学的には「邪魔」などと言ってはいけない存在なのだ。現在の富士山そのもの(地表に現れている山体)は、せいぜい過去 20 万年間の火成岩(溶岩や火砕岩)の堆積である。しかし、御坂山塊はそれよりもはるかに古く、1000 万年以上前の付加体や火成岩で形成されている。ウニの化石なども発見されている。甲府盆地から見た「成り上がり富士」は、その「古老の御坂」に敬意を表し、「恐れ入りやす!」とばかり、山頂だけを申し訳程度に見せているのである。



甲府駅が近づくと、御坂山塊の一番低い山嶺越しに富士山が見え、少し見やすくなる。およそ6合目より上が見えているようだ。

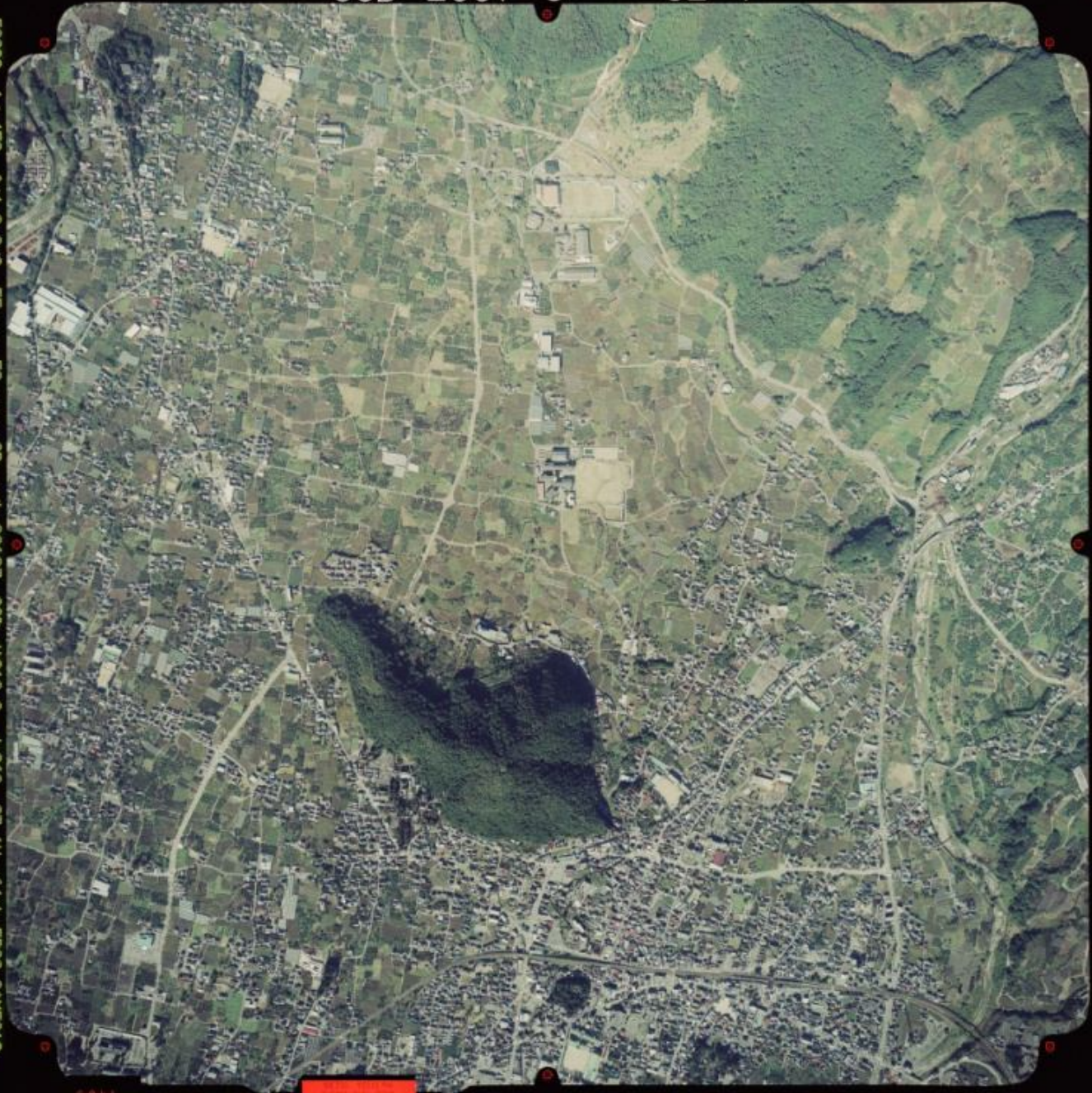


特急は、山梨市駅、酒折駅などを次々と通過して、定刻に甲府駅に滑り込んだ。新宿から1時間半。速い! 甲府駅の構内からは甲府城(舞鶴城)が見える。

CCB-2007-5

C2-7

FS2000 1/ 450 f/4.0 2/3 FF---- EC----- SP- u/h.20697 00% dt018.0 ds069 27.1v -64mb ER00 CAMS218



1401